

緩和ケア病棟

がんとともに生きることへの援助



緩和ケア内科代表部長
平山 功

当院の緩和ケア病棟は、高崎前橋地域では初めてとなる施設として平成23年1月に開棟いたしました。病院によってはホスピスとも呼ばれる緩和ケア病棟ですが、当院ではがんの患者さんに特化した病棟として運用し、緩和ケア内科が担当しております。

がんという大病を患えば、誰でも心配でどうしようもない気持ちになります。治療の段階では、病気の克服を目標に何とか頑張れた患者さんも、病気に対して根治が難しいとなったとき、自分の体と気持ちにどう向き合っているかを見失ってしまいます。いわば自分の生きる意味を見失うと言ってもいいかもしれません。そのようなとき、支えになれるような取り組みを、との考えからつくられたのが当院の緩和ケア病棟です。

緩和ケア病棟は、手術・抗がん剤や救急対応は行いませんが、“何もしない病棟”ではありません。つらい症状を和らげる医療（緩和医療）を行います。そして静かにゆっくりと、ときにはご家族やスタッフとともに過ごしていただく中で、つらい体験を続けてきたきもちが少しでも「緩」み「和」らいだとき、患者さんはご自身が見失いかけた生きる意味をもう一度考えてみるのかもしれないかもしれません。それらすべてを私たちスタッフは支えていきたいと思うのです（緩和ケア）。そのために、病棟スタッフも時間的配分を考慮した人員配置となっております。

病棟は当院C棟2階です。南窓の個室を中心とした16床の病棟です。明るく広い面会スペース・自由に利用できるキッチン・ご家族休憩室など、施設基準に則した設備を整えており、個室は木目を取り入れた雰囲気のある設計となっております。専従スタッフは、医師1名（日本緩和医療学会暫定指導医）・看護師15名・看護助手1名です。

緩和ケア病棟への入院は、緩和ケア外来を受診いただいでご相談します。週2日の予約制ですが、紹介状が必要となりますので、現在の主治医の先生から予約をお取りいただくこととなります。

患者さんに、がん療養場所の選択肢として緩和ケア病棟を考えていただくためには、「済生会の緩和ケア病棟」ではなく「地域の緩和ケア病棟」でありたいと考えております。開棟より多くの医療機関からご紹介を賜り、院外紹介率は約7割となっております。これもひとえに地域の先生方のご理解・お力添えのお蔭と、深く感謝申し上げます。

まだまだ発展途上の病棟ではありますが、がんに向き合う方々への援助とはどういうことかを真剣に考え、その一方で何でもお話しただけの雰囲気も大切にして、スタッフは日々研鑽に努めております。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

